

科目担当者氏名		科目担当者連絡先 (メールアドレス)	
(ふりがな) 吉野英岐			
連絡責任者氏名		科目設置機関名	
(ふりがな) うさみせいじ 宇佐美誠史		岩手県立大学総合政策学部総合政策学科	
授業科目名		科目認定番号	受講者数
地域社会調査実習		IWKa-150903-0	11 名

I. 調査実習に関するコメント

学生が果たした役割や実習全般に対する感想など：

岩手県八幡平市のコミュニティ組織および関連事業者に対して実施した聞き取り調査において、学生の果たした役割は設問の作成、対象者への連絡、調査の実施、聞き取り結果のまとめ、結果の分析、報告書の作成、学内報告会での報告である。実習全般の感想は学生も精力的に調査活動に取り組み、結果についても今後に資する形でまとめることができた。

II. 調査の企画・設計 (デザイン)

1. 調査のテーマ/領域：

2015 年に合併後 10 年が経過した岩手県八幡平市では、今後の地域社会づくりの推進を図るうえで、女性の声は無くしてはならないものであるが、各種委員会等の女性の登用率は低いままである。また企業や地域社会で意思決定に係る立場に就いている女性の割合も低く、現状は看過できる状況ではない。そこで、女性が意思決定場面に係ることが低い要因の解明と、この状況を突破した先進事例の分析を通じて、今後の八幡平市の男女共同参画の推進に資する知見を獲得する。

2. 調査の内容/概要：

岩手県八幡平市における男女共同参画社会づくりの現状と課題を明らかにするために、コミュニティ組織に対しては、ワークショップ形式で、日常の業務・事業内容と企画・実施段階での女性の参画度合いと果たす役割、事業者については個別面接方式で、事業内容と女性の役職への登用状況、育児休暇等の取得状況、経営側の配慮などについて、その内容を明らかにした。現地調査は対象機関や事業者の協力により、コミュニティ組織や事業所を学生が訪問する形で実施した。

3. 調査の範囲/対象 (量的調査の場合は母集団と標本数及びサンプリングの方法を、質的調査の場合は対象者選定の理由を必ず記入)：

聞き取り調査の対象は、八幡平市役所との協議により選定した。その結果、市内のコミュニティ組織 3ヶ所の役員層、市内の事業者 4 社の経営層、および八幡平市役所担当職員である。

4. 主な調査項目：

コミュニティ組織：女性が活躍している場面、女性役員の数と役員全体に占める割合、女性を役員に登用した場合のプラスの点・課題点、地域で女性の能力を高めるような取り組み・工夫点、ワークライフバランスについて
事業所：女性社員の数 (正規・臨時、パート等) と割合、既婚の女性正社員の数と女性社員全体に占める割合、女性社員が活躍している場面、女性社員の能力を高めるような工夫、女性管理職のプラスの点・課題点、ワークライフバランス

III. データ収集の方法と結果

5. データ収集 (現地調査) の方法：

調査方法は質的調査のなかのワークショップおよび聞き取り調査法を用いた。ワークショップでは KJ 法等を用いて、意見を集約した。聞き取り調査では質問紙による半構造化インタビュー方式で、指導教員と受講学生で訪問して実施した。

6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数：

現地調査の実施時期は 2016 年 2 月 14 日～15 日、調査地は岩手県八幡平市、調査員の数は学生 11 名である。

7. 収集したデータの量と質への評価 (量的調査の場合は有効回収票数及び回収率を必ず記入)：

市役所、コミュニティ組織 3 か所、事業者 4 か所で、市内の 3 地区から各 1 つコミュニティ組織および主要な事業所をおさえることができた。

IV. データ分析の方法と結果

8. データ分析/解釈の方法：

聞き取り調査の結果を取りまとめ、コミュニティ組織、事業所ごとに内容を整理し、現状と課題を明らかにした。男女共同参画に関連する数値データや統計と関連させながら、今後の八幡平市の方向性を提言した。

9. 調査の成果 (調査から得られた主な知見など)：

八幡平市における男女共同参画については、地域差よりも世代による意識の差が大きい。若い世代の出番を増やし、意見がいえる環境を整備することで、今後は女性の登用も進むものと思われる。

10. 報告書刊行の予定と概要：

現在のところ報告書の刊行予定はない。添付した資料は学内の実習発表会での報告資もとに作成した。